

????????????????????????????????

自分の気持ちは？

支援室にいと、よく聞くやり取りがあります。「〇〇ちゃんが使いたそうだから貸してあげたら？」「そこどいてあげて」など、友達に譲ることを促す言葉です。私たちも子どもの頃は「人に親切に」「相手の気持ちを考えて」「お先にどうぞ」など、自分より相手を優先にすることが良いと教えられてきました。確かにそういうことの積み重ねで、相手に対する思いやりや優しさが育っていくのかもしれませんが、しかし、「自分の気持ちを大切にする」という人格形成の観点からみると、どうもうまいかないような気がします。自分の思いが満たされていないのに相手の気持ちを思いやるよう言われても、年齢が小さければ小さいほど難しく、「まだ自分が満足していないのに、何で譲らなくちゃいけないの??」という思いが、泣いて訴えるという行動に表れるのかもしれません。それを「ほらわがまま言わないで」「優しい人だねかな？」などと、自分の気持ちを抑えるような（相手を思いやるような）言葉をかけ続けていくと、「満たされない」の塊が、どんどん大きくなって不機嫌やぐずりとなって表れてきます。

でも、自分の子が使っているものを他の子が欲しがっていて、その上近くにその子のお母さんがいたら、つい「もういっぱい使ったでしょ。貸してあげよう。」と声をかけたくりますよね。それじゃあ、どんな言葉をかければいいのでしょうか。その場面は人間関係が育つ大事なやり取りの場面と捉え、「〇〇ちゃんも使いたいみたい。どうする？」と、子どもの気持ちを聞いたり、「□□ちゃん、△△ちゃんまだ使いたいみたい。もう少し待てる？」など、折り合いの付け所を探ったりしていけるといいですね。自分の気持ちを聞いてもらう経験、満足するまで待ってもらった経験は、次に相手に向かう思いやりにつながります。保護者同士の気遣いもあり、なかなか難しいかもしれませんが、自分の子の思いに寄り添う言葉かけを心がけるだけで、少し違った姿が見えるかもしれません。

!!